

■大項目評価の論点整理 ～「Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する項目」※法人の自己評価段階の整理

小項目評価の集計

	今回の 年度評価の 対象項目数	I 年度計画を大 幅に下回って いる	II 年度計画を十 分に実施でき ていない	III 年度計画を順 調に実施して いる	IV 年度計画を上 回って実施し ている	V 年度計画を大 幅に上回って 実施している
運営体制の改善	14	0	0	13	1	0
教育研究組織の 見直し	3	0	0	2	1	0
人事の適正化	13	0	0	12	1	0
事務等の 効率化・合理化	6	0	0	6	0	0
合計	36	0	0	33	3	0

※ウエイト2の項目が2項目（130Ⅳ
と145Ⅲ）あり、これを考慮すると、
Ⅲは34、Ⅳは4となる。

⇒A「計画どおり」に進捗している、
と判断できる。

評価において考慮すべき事項

2-1. 小項目評価における「特筆すべき取組」

- (1) 自己評価がⅣ・Ⅴの項目
 - (130) 全学的経営戦略の推進【Ⅳ】
 - (146) 部局横断型共同研究の組織的取組として「21世紀学研究所」の設置【Ⅳ】
 - (150) 事務職員への民間企業経験者等即戦力の活用【Ⅳ】
- (2) 自己評価がⅠ・Ⅱの項目
なし
- (3) 上記のほか「特筆すべき取組」とする項目

2-2. 事務局における確認事項

- (1) 経営戦略を企画立案するマネジメント体制の整備
→マネジメント体制の整備については、計画どおり実施されている。
- (2) 理事長のリーダーシップによる効率的・戦略的な法人経営
→人事・財政面の裁量権は確保され、外部研究資金の実績などからリーダーシップが発揮されていると判断。
- (3) 法人の裁量を活かした、総合的な戦略や柔軟かつ迅速な資源配分
→裁量経費措置、業績反映研究費導入のほか、教員の全学的選考、実務者の職員採用などの取組が実施。
- (4) 法人の裁量やマネジメントの仕組みを活かし、資源配分の事後チェックと見直し
→平成19年度に自己点検・評価（以降3年毎）を行い、平成21年度に外部評価を受ける予定。
- (5) 教育研究活動の進展等に対応した、迅速かつ効率的な意思決定、業務運営の合理化
→理事長、部局長の裁量確保、教授会の審議事項の精選など、業務運営の合理化は進んでいる。
- (6) 一定程度以上の収容定員の充足率
→定員充足率については、学部110%、研究科123%となっており、いずれも十分充足している。
- (7) 経営会議の設置、役員への外部人材登用など、外部有識者の活用により運営の活性化
→役員に民間企業出身者を登用し、経営会議等に学外の人材を活用するなど外部人材の活用が進んでいる。
- (8) 自己改善サイクル構築の一環として、監事、会計監査人など、内部監査機能の充実
→内部監査や会計監査の組織体制は一定整備されており、監査が実施されている。

「Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する項目」の大項目評価とその理由

- S「特筆すべき進行状況」
- A「計画どおり」
- B「おおむね計画どおり」
- C「やや遅れている」
- D「重大な改善事項あり」

■大項目評価の論点整理 ～「Ⅲ 財務内容の改善に関する項目」 ※法人の自己評価段階の整理

小項目評価の集計

	今回の 年度評価の 対象項目数	I 年度計画を大 幅に下回って いる	II 年度計画を十 分に実施でき ていない	III 年度計画を順 調に実施して いる	IV 年度計画を上 回って実施し ている	V 年度計画を大 幅に上回って 実施している
外部研究資金等の 自己収入の増加	5	0	0	3	1	1
経費の抑制	7	0	0	7	0	0
資産の運用 管理の改善	3	0	0	3	0	0
合計	15	0	0	13	1	1

※ウェイト2の項目が2項目（166V
と167IV）あり、これを考慮すると、
Ⅲ13、IV2、V2となる。
⇒A「計画どおり」に進捗している、
と判断できる。

評価において考慮すべき事項

2-1. 小項目評価における「特筆すべき項目」

(1) 自己評価がⅣ・Ⅴの項目
・(166) 外部研究資金の獲得【Ⅴ】
・(167) 外部研究資金の充当、教員のインセンティブ保持方策の実施【Ⅳ】

(2) 自己評価がⅠ・Ⅱの項目
なし

(3) 上記のほか「特筆すべき取組」とする項目

2-2. 事務局における確認事項

(1) 法人制度のメリットを活かした財務内容の改善・充実
→自己収入については、理事長のリーダーシップのもと、インセンティブ保持方策の実施により、外部研究資金が飛躍的に伸びている（法人化前80.8%増）。
→経費削減については、柔軟な人事制度や会計制度のメリットを活かしつつ、物品や設備の契約方法の工夫等により、人件費、一般管理費、施設整備費の削減を図っている。

(2) 人件費削減に向けた計画的な取組み
→中期計画策定時から見通しを立て、計画的に取り組んでいる。
→法人化や3大学統合を契機に、事務部門の集約化、ITの導入、アウトソーシングの推進を図るとともに、人材派遣サービスの導入など、弾力的な人事制度を活かした取組みを行っている。

「Ⅲ 財務内容の改善に関する項目」の大項目評価とその理由

S「特筆すべき進行状況」
A「計画どおり」
B「おおむね計画どおり」
C「やや遅れている」
D「重大な改善事項あり」

■大項目評価の論点整理 ～「Ⅳ 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供」※法人の自己評価段階の整理

小項目評価の集計	今回の 年度評価の 対象項目数	I 年度計画を大 幅に下回って いる	II 年度計画を十 分に実施でき ていない	III 年度計画を順 調に実施して いる	IV 年度計画を上 回って実施し ている	V 年度計画を大 幅に上回って 実施している	
	評価の充実	2	0	0	2	0	0
	情報公開	4	0	0	4	0	0
	合計	6	0	0	6	0	0

※ウェイト2の項目はなし。
⇒すべての項目がⅢ～Ⅴに該当することから、Aの「計画どおり」進捗している、と判断できる。

2-1. 小項目評価における「特筆すべき項目」

- (1) 自己評価がⅣ・Ⅴの項目
なし
- (2) 自己評価がⅠ・Ⅱの項目
なし
- (3) 上記のほか「特筆すべき取組」とする項目

2-2. 事務局における確認事項

- (1) マネジメントサイクルとしての自己点検・評価及び人事評価
→平成19年度に部局及び全学単位で行う自己点検・評価の実施に向けて、課題整理や実施スケジュール及び報告書の作成など準備が進められている。
- (2) 情報発信・情報公開の促進
→ホームページ等を活用し法人情報や研究・教育情報が公開されているとともに、教員活動情報を学内に公開するなど、情報公開の促進などが図られている。

「Ⅳ 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供」の大項目評価とその理由

- S「特筆すべき進行状況」
- A「計画どおり」
- B「おおむね計画どおり」
- C「やや遅れている」
- D「重大な改善事項あり」

■大項目評価の論点整理 ～「V その他業務運営に関する項目」 ※法人の自己評価段階の整理

小項目評価の集計

		I 年度計画を大幅に下回っている	II 年度計画を十分に実施できていない	III 年度計画を順調に実施している	IV 年度計画を上回って実施している	V 年度計画を大幅に上回って実施している
施設設備の整備等	10	0	0	9	1	0
安全管理等	6	0	0	6	0	0
人権	5	0	0	5	0	0
合計	21	0	0	20	1	0

※ ウェイト2の項目が2項目（192Ⅲと193Ⅲ）あり、これを考慮すると、Ⅲ22、Ⅳ1となる。
 ⇒すべての項目がⅢ～Ⅴに該当することから、Aの「計画どおり」に進捗している、と判断できる。

評価において考慮すべき事項

2-1. 小項目評価における「特筆すべき項目」

(1)自己評価がⅣ・Ⅴの項目
 (197) 学舎整備にかかるコスト削減と資金需要の平準化【Ⅳ】

(2)自己評価がⅠ・Ⅱの項目
 なし

(3)上記のほか「特筆すべき取組」とする項目

2-2. 事務局における確認事項

(1)施設・設備の計画的な整備や効率的な活用
 →平成18年7月に施設整備プランを策定し、計画的に施設整備が進められている。
 →施設整備に当たっては、柔軟な会計制度のメリットを活かし、SPCやCM方式の活用などにより、コスト削減と資金需要の平準化を図っている。
 →既存施設や大型研究機器の共同活用に向けた取組みも行われている。

(2)適切な危機管理体制の整備、危機事象発生時の適切な対応
 →全学においては、危機管理対応方針などのマニュアルの策定、緊急連絡体制の整備が進められ、学部においても、安全管理マニュアルや安全衛生管理チェックシートが作成されるなど、計画通り進められている。

「V その他業務運営に関する項目」の大項目評価の大項目評価とその理由

S「特筆すべき進行状況」
 A「計画どおり」
 B「おおむね計画どおり」
 C「やや遅れている」
 D「重大な改善事項あり」